

県民総合運動公園アクセス改善対策実証事業 最終報告書

令和6年(2024年)12月10日

企画振興部

観光文化部

土木部

教育委員会

1 実証事業の概要

(1) 背景・目的

- 県民総合運動公園（以下、「運動公園」という。）は、公共交通機関によるアクセス手段が乏しく自家用車での来園者が多い。
- また、□アツソ熊本のホームゲームや複数のスポーツ大会が重なる場合等に周辺道路で渋滞が発生。
- 運動公園のアクセス改善のため、県が主体的に実証事業に取り組み、効果や課題を検証の上、今後の対策を検討するもの。

(2) 実施内容

①主催者等調整会議の設置

- ・ 関係機関（主催者、県関係四課、県警、指定管理者等）で事前に運動公園の来園見込者数・混雑予想日を共有し、対策を協議

②自家用車以外での来場を促進するための対策

- ・ パーク&バスライドの実施
- ・ J R 駅（熊本駅・光の森駅）からのシャトルバスの運行

③運動公園内に駐車する車両のスムーズな駐車・退出のための対策

- ・ 臨時駐車場（調整池、多目的グラウンド等）の確保
- ・ 交通誘導警備員、駐車場間誘導員の配置
- ・ 運動公園内駐車場の満空情報の発信（ホームページ、SNS）
- ・ メイン駐車場からの臨時退出路の運用



パーク&バスライド



シャトルバス



臨時駐車場
(多目的グラウンド)



臨時退出路

(3) 実施期間及び対象イベント

令和5年（2023年）2月26日～令和6年（2024年）11月10日まで【71回実施】

- ①□アツソ熊本ホームゲーム ②ラグビー日本代表国際試合 ③県高校総合体育大会 ④その他陸上大会等

2 実証事業の結果

○主な成果

●主な課題

(1) パーク&バスライド

成果

○ロアツソの試合で平均1,013人（観戦者数の13.4%）が利用し、平均で467台の来園車両を削減

課題

- パーク&バスライドの実施には1試合あたり約490万円※を要するため、今後、主催者での実施を求める場合、費用負担が課題
- パーク&バスライドの実施を知らない観戦者もいるため、利用増加のための更なる周知が必要

※シャトルバスとの共通予約システム経費等を含む

(2) シャトルバス

成果

○ロアツソの試合で平均400人（観戦者数の5.3%）が利用

課題

- シャトルバスの実施には1試合あたり約120万円を要するため、今後、主催者での実施を求める場合、費用負担が課題
- 2024シーズンから路線バスの運転手不足（2024年問題）に起因するJR光の森駅発シャトルバスの運行方式変更（路線バス方式から貸切バスへの切替え）に伴う経費増や利便性低下（①要事前予約、②現金での支払い不可）が発生
- 利用増加のための更なる周知及びシャトルバスの現状（運行方法等）を踏まえた今後の対策の検討が必要

(3) 臨時駐車場の確保、交通誘導警備員等の配置、駐車場の満空情報の発信

成果

- 常設駐車場満車時でも臨時駐車場への誘導が可能となり、枠外駐車や路上駐車 of 減小を確認
- 雨天時の利用に課題があった臨時駐車場の一部（多目的グラウンド）で排水改良工事を実施

(4) メイン駐車場からの臨時退出路の運用

成果

- ロアツソの試合日に臨時退出路を運用した結果、平均253台（退出車両台数の38.8%）が利用し、退出方向の分散による国体道路南北線への退出車両の流入台数減と駐車場内の渋滞解消までの所要時間（※）の短縮効果を確認
- 夜間運用時の課題であった安全性確保のため、照明設備を設置

※渋滞解消までの所要時間（ロアツソの試合終了後からメイン駐車場出入口での退出車両の待機車列が5台未満になるまでの時間）

実証事業前（2022シーズン最終戦及びJ1昇格プレーオフ時）	実証事業による臨時退出路運用後（平均）
約120分～130分	約60分

3 今後の取組みの方向性

(1) 運動公園のアクセス改善対策の継続実施

- ・主催者等調整会議を継続開催し、関係者間で「アクセス改善対策パッケージ」を基準として来園見込者数に応じた必要な対策を協議・実施する。

対策実施の基準とする来園見込者数（※）	対策パッケージに基づく実施内容
5,500人～10,000人未満	来園見込者数に応じて段階的に臨時駐車場を確保の上、交通誘導警備員を配置し、空き駐車場へ適切に誘導を行い、入庫待ちの車列解消や、駐車場を探す「うろつき運転」の減少を図る。
10,000人以上	上記の対応のみでは、駐車場不足や渋滞発生が想定されるため、パーク&バスライドやシャトルバス等の対策を継続していく。

※実証事業を通して概ね5,500人以上の来園があると常設駐車場のみでは不足し、臨時駐車場をすべて活用すれば、概ね1万人までの来園者は園内駐車場で対応可能であることを確認。

- ・来園車両の一斉退出が見込まれる場合には、メイン駐車場からの臨時退出路の運用を継続し、国体道路南北線への車両流入抑制による渋滞緩和を図る。
- ・交差点改良や信号現示の改善等に関し、熊本市、県警と連携し取り組む。

(2) アクセス改善に関する実施方法や費用負担のあり方

- ・渋滞緩和のためには、引き続きシャトルバスやパーク&バスライドによる対策が効果的であるが、コストが課題。そのため、今後は、持続可能なアクセス改善に関する実施方法や費用負担のあり方を検討していく。

(3) 利便性が高く安定的に利用可能な駐車場の確保・管理の効率化

- ・駐車場の満空情報の発信手法等、他自治体の事例等を参考に駐車場管理の改善や効率化について引き続き検討する。
- ・イベント時の駐車場不足や、一部の駐車場がスタジアムまで遠いことから、多くの来園者に快適に利用して頂ける公園を目指し、新たな常設駐車場整備に向け取り組んでいく。
- ・今年度中に、住民説明会などの都市計画変更に向けた手続きに着手していく。